

ACTIVO 通信

第2号 2016年9月

ホンジュラス国金融包摂を通じた CCT 受給世帯の生活改善・生計向上プロジェクト

- 貧困者比率が6割以上と言われる中米ホンジュラスにおいて、自立発展的な貧困削減を目指しています。
- 現地でのプロジェクト愛称は ACTIVO です。このため、当プロジェクトの進める貧困削減モデルを、ACTIVO モデルと呼びます。これは、スペイン語のスローガンである「より良い生活のための貯蓄、金融口座、労働及び収入 (Ahorro, Cuenta financiera, Trabajo e Ingreso para la Vida Optimizada)」の頭文字をとったものです。
- スペイン語の ACTIVO には、英語のアセット(資産)とアクティブ(活動的)の両方の意味があります。この ACTIVO モデルを使うことで、最貧困層が「活動的に資産形成すること」ができるようになり、結果、外的ショック(治安流動化、自然災害、流行病等)が発生した場合でも、これに耐えることができるようになります。これにより、最貧困層は、家計・生計を安定的に維持又は強化できるようになります。
- ACTIVO モデルでは、最貧困層の家計管理、金融利用、生計向上活動(生業ビジネス等)を総合的に強化します。

ACTIVO モデルのパイロット実施開始

約1千世帯に対して、貧困削減に向けた取り組みを開始しました!!

2016年4月、プロジェクト対象5市の各々で、次の通り、最貧困層パイロット1千世帯向けの研修・コーチングを開始しました。

- 2016年4月: 貯蓄の重要性等に関わる導入研修を実施
- 2016年5月: 家計管理に関わる研修を実施
- 2016年6月: 金融利用に関わる研修を実施
- 2016年7月: 生計向上(主に生業ビジネスの計画作成)研修を実施
- 2016年8月以降: 生業技術(パン作り、衣服販売等)の研修を実施

こうした研修では、本プロジェクト現地側実施機関の社会統合副省の普及員、市自治体の職員等が講師を務めました。金融教育に関わる部分では、民間の金融機関が協力し、預金口座開設も促しました。



銀行支店長による金融教育(2016年7月、銀行支店のないサン・ラファエル市で、金融教育を手伝ってくれました。)

研修の合間では、コミュニティリーダーによるコーチングを行いました。これは、研修で学んだ家計簿作成方法の復習を行ったり、家計・生計強化に関わる活動の相談を行ったりするものです。コーチングを担当したコミュニティリーダーには、町内会会長、地域の取り纏めを行うボランティア等が含まれます。

研修参加者の多くは、最貧困層の女性であり、「家計支出を計画的に考えることで貯蓄できることに気付いた。」「研修に出席すること自体が楽しい。」といった意見が聞かれました。

パイロット活動モニタリング調査

金融教育を受けた世帯の3分の2程度が預金口座を増やしました!!

2016年4月開始のパイロット最貧困層世帯向けのACTIVOモデル適用(研修やコーチングの提供等)の中間成果を確認するため、2016年7月、対象世帯に質問票調査を行いました。結果、ACTIVOモデルの試行適用が、次のような成果を生み出している様子が窺えました。

- 家計簿作成世帯割合、緊急時の資金に(予め備えておいた)貯蓄を活用する世帯が増えました。例えば、家計簿作成世帯比率は、2015年6月の調査時点の6%から、2016年7月には41%に上昇しました。
- 金融教育を受けた世帯では、口座を持っている世帯のうちの3分の2程度が口座残高を増やすことができました。

家計管理導入により資産形成が進んだ結果、将来の外的ショック(自然災害、疫病発生等)にも備えられるようになってきた様子が窺えます。最貧困層の生活・生計の安定化に向け、今後、生業ビジネス活性化にも取り組みます。

注: ACTIVO 通信に掲載されている見解については、独立行政法人国際協力機構及びホンジュラス政府の公式見解と一致しないこともあります。